

『義の実があふれる』 コリント人への手紙第二 9章8～15節 2016.7.17(聖日礼拝説教より)

『…豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。…』 II コリント 9:6

◆『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われた神は、「…私たちが、良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みを、あふれるばかりに与えるお方…(8節)」です！この神に創られた私たちが、その恵みをちゃんと受け取りさえすれば、それは豊かに溢れて誰かを潤す…はず！豊かに与えてくださる神への正しい信仰があれば、驚くべき祝福と幸せに至る！

◆エリヤを助けたツァルファンのやもめは、その時、残りのパンを焼き、息子と食べて死のうとしていた。彼女は、決して憐れみ深くも慈しみ豊かでもなかったが、エリヤが伝えた言葉、「まず与えれば、生きることができる」ことを約束した神を信じて、自分と息子の食べる分をエリヤに与えた！約束通り『そのかめの粉は尽きず、そのつぼの油はなくなら(I列王 17:16)』なかった。しかしこれは「お返しを期待して与える」御利益信仰ではないのか？NO！彼女は、人も世も当てにせず、ただ神の報いだけを期待した。これぞ信仰！イエスは言われた『(あなたの誰も知らない隠れた施しを…)隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださる(マタイ 6:3～4)』と。つまり、施しや捧げ物は、人には隠され、神のみに知られ、豊かな報いとなるものだという！エリヤを助けたやもめは、「神が必ず助けてくださる！絶対命を守り、恵みを報いてくださる！」と信じて与え、捧げて、大いなる感謝に至った！

◆人が、そこまで神を信頼できるのは何故か？聖書は『あなたがたは、あらゆる点で豊かにされた(11節)』と言う。「あらゆる点」とは、人生の全てである。神が、人生の全てに関わっておられると知ってこそ信頼できるというもの！ヨブは、完全に神を信頼する生活の中で、全財産と愛する家族を一瞬にして失ったが、「生まれた時、わたしは裸でした。死ぬ時も、何一つもって行けません。わたしの持ち物は、全部、神様が下さったものです。ですから、神様はそれを取り上げる権利もお持ちです。神様の御名がたたえられますように(ヨブ 1:21 リビングバイブル訳)」と告白した。心をズタズタに引き裂かれるような思いの中、万物を支配される神の前にひれ伏した。悪魔の仕業も罪の呪いも滅ぼし、慰めも祝福も…何もかも豊かにお与えくださる神を信頼し、讃美し、礼拝した！

★今週私たちも、マタイ 25:34～40 にある神が喜ばれる施しを実践し「与える幸せ」を実感したい！